

枚方宿本陣跡碑の寄贈に 感謝状を受贈



第87号

発行

宿場町枚方を考える会
会長 堀家 啓男
072-892-5504

事務局

枚方市出口2丁目6-6
上野幸夫 072-832-5722

編集 広報委員会

主な内容

- 感謝状を受贈 (1頁)
- 湖北・湖東の旅 (2頁〜4頁)
- 淀川舟運の魅力発見 (5頁〜9頁)
- 渡来人依羅氏 (10頁〜13頁)
- 律令制に基づく旧国名 (14頁〜16頁)

本紙前号でお知らせしたように、本会は枚方市が市制七十周年を迎えたのを機に、市へ「東海道枚方宿本陣跡碑」を寄贈しました。



枚方宿本陣跡碑

除幕式は平成29年10月5日、碑の設置場所であり、枚方の宿本陣があつた三矢公園(三矢町)で行われました。この本陣跡碑の寄贈に対し同年10月25日、伏見隆枚方

市長から本会に感謝状が贈られました。



左から、伏見枚方市長、堀家会長、上谷副会長、松井・伊豆田事務局次長

受贈には、堀家会長、上谷副会長、伊豆田事務局次長、松井事務局次長が出席、感謝

状には「枚方宿本陣跡碑を歴史文化啓発のために寄贈されました。よつてそのご厚意に対し深く感謝の意を表します(要旨)」と記されています。



感謝状

宿場町枚方を考える会
会長 堀家 啓男 様

貴会は本市文化行政に深く理解を示され枚方宿本陣跡碑を歴史文化啓発のために寄贈されました。よつてご厚意に対し深く感謝の意を表します

平成29年10月25日

枚方市長 伏見 隆

長浜・蒲生あかね古墳公園など

湖北・湖東の旅

八幡市 榊原啓雄

2年続けての滋賀県方面へのバス見学会。湖北とは、滋賀県北東部のことで琵琶湖の東岸、米原市以北を言います。この地は、関ヶ原を越えて中山道が、若狭からは北国街道が通り、琵琶湖の湖上水運と交わる交通の要衝でした。古来、この地を舞台にした数々の兵乱があったのは、その地理的重要性を示すものといわれています。当日はあいにく

の小雨模様でしたが、午後には雨も止み、無事見学会を終えることができました。以下、各見学先を簡単に紹介します。

長浜城歴史博物館

浅井長政の滅亡後、湖北を支配したのは、羽柴秀吉でした。秀吉は浅井氏の領国の大部分を与えられ小谷城に入りました。その後の天正2年(1

574年)、今浜(現在の長浜市公園町付近)に築城を開始しましたが、琵琶湖の舟運を重視した領国経営により城を湖岸へ移し、城下町を造りました。地名を「今浜」から「長浜」と改め、天正5年(1577年)に「長浜城」を完成しました。ガイドさんから「長浜は、秀吉が一国一城の主となった最初の拠点であり、彼の城下町経営の基本パターン

を醸成したところですよ」との説明がありました。城の5階は望楼で、天気の良い日であれば「戦国武士の祈りの聖地」である竹生島も眺められるのですが、当日は小雨だったため、琵琶湖は靄に包まれていました。なお、長浜城は慶長12年(1612年)に湖北支配の役割を彦根城に譲り、廃城となっています。



長浜城 (歴史博物館)

現在の長浜城は、昭和58年に再興され、市立長浜城歴史

博物館として開館されたものです。

北国街道・安藤家

安藤家は、賤ヶ岳合戦で秀吉に協力し、長浜の自治を委ねられた一人として長浜の発展に尽力しました。明治以降の安藤家は、近江商人との親戚関係から商人となり、呉服問屋として事業を展開しました。現在の建物は明治38年に建設された近代和風建築物で、当時の長浜における豪商の名



安藤家見学者入口

残を伝えていきます。

この建物の大きな見所としては、芸術家、美食家など様々な顔を持つ北大路魯山人の作品を鑑賞できることです。彼は30歳の頃、長浜に逗留し、篆刻作品を数多く創作しました。安藤家の離れは、中国で篆刻や書を学んだ魯山人により「小蘭亭」と名付けられました。



小蘭亭

内装は文人趣味に徹し、篆刻、天井絵、襖絵なども中国

風に装飾されています。

こちらのガイドさんは、当館の館長で、「長浜のまちづくり」に関しても重要な役割を担っている方でした。長浜城のガイドさんによれば、「館長さんが当日のガイドであれば、私たちの出る幕はない」ということでした。長浜市観光協会のガイド仲間からも一目も二目も置かれる方でした。

パンフレットを見ると見学した安藤家は「長浜まちづくり株式会社」の所有と記述されていました。館長さんは、この会社の重役さんでした。「理想のまちづくり」をめざして、あちこちの町を訪ね歩き、枚方の鍵屋にも数回訪問されておられました。時間があればいくらでもお話していただけるのですが、昼食時間のため、残念ながら見学を打ち切らざるを得ませんでした。

蒲生あかね古墳公園

蒲生あかね古墳公園は、滋賀県史跡の古墳群の一部です。木村古墳群の保護と活用を目的に、出来るだけ昔の姿に整備されています。木村古墳群は滋賀県最大の古墳群ですが、名神高速道路の建設時、多くの古墳群を失い、天乞山古墳と久保田山古墳だけが山林と水田として残っていました。

この二基の発掘調査は昭和55年から始まり、天乞山古墳は一辺65m、高さ11mの方墳とわかりました。方墳としては滋賀県最大で、全国でも4番目の大きさです。久保田山古墳は直径57m、高さ5mの円墳です。いずれの古墳も表面には石が張られ、埴輪が立てられています。蒲生町の観光ガイドさんは「古墳は



天乞山古墳



久保田山古墳

1500年という長い年月の間に様変わりしたが、平成4年から5年をかけ、できる限り当時の姿に戻し、古墳に親しんでもらおうと整備した」と、熱い思いで語られました。古墳公園に到着した頃には、雨も止んでおり、二つのグループに分かれて方墳と円墳を交互に見学しました。

ガイドさんは、決して話上手ではありませんが、郷土の歴史に強い愛着を持つガイドさんでした。

事前の打ち合わせでは2人のはずでしたが、当日は5人の方々に迎えていただきました。見学前にバスの中で童謡やハーモニカで歓迎していただきました。

ガイドの皆さんは、全員が古墳の近くに住んでおられ、日常的に古墳群の清掃などを行っておられるとのことでした。

今回のバス見学会では、長浜でも蒲生でも私たち訪問者に対して、ガイドさんの実直で誠実に対応される「おもてなしの心」がとても印象的でした。皆さま方のおかげで内容ある充実した見学会となりました。ここに感謝申し上げます。



参加者全員で記念撮影 (長浜城歴史博物館)

枚方宿、京街道及び淀川舟運

知られざる魅力を発見

交野市 堀家啓男

京阪間の交通は、古代から淀川舟運が中心でした。しかし、豊臣秀吉が淀川左岸の枚方北端から大坂まで文禄堤を築いたことで、陸路による交通が盛んになりました。徳川家康が慶長6年(1601年)に東海道五十三宿を、まず京都まで設置したのは、豊臣家が大坂におり、大坂までできなかったからです。大坂夏の陣(1615年)で豊臣家を滅ぼした後、京街道の伏見、淀、枚方、守口の4宿を置きました。ここから枚方宿が淀川の舟運と陸路による京坂間の交通の要衝として発展、大きな役割を果たすことになりました。枚方宿、京街道および淀川舟運にはまだまだ知られざる多くの魅力があります。

枚方宿

枚方宿は元和2年(161

6年)に設置されたと思われ
ます。守口宿が同年に設置さ
れたとする古文書が守口に
残っており、枚方宿も同時期
と推定できます。枚方宿は京
都側から、岡新町、岡、三矢、
泥町の4つの村で構成されて
います。このうち淀川舟運の
津として発展した三矢には、
早くから河関が置かれるなど
町場が形成されてきました。
山手側にあった岡は、秀吉
の文禄堤の整備後に堤上へ移
転したようで、三矢村とも
に宿泊施設が増え、町場にな
りました。さらに三矢村へは、
戦国期末に形成された枚方寺
内町の終焉により商人らの流
入が進み、平和の到来ととも
に、陸路、舟運の要衝として
幕府による枚方宿の設置に結
びつきました。

に続いて町場が開けたと思わ
れます。枚方宿という名称は
枚方寺内町の歴史との関わり
が指摘されています。
枚方宿を構成する村にも領
主が配置され、時代ごとの幕
府政策の影響を受けました。
近世初めの寛永10年(1633
年)には豊臣系や西国大名
対策で軍事力を期待された淀
藩永井家(寛永期1633年
〜)が領主になりましたが、
早くも正保期(1644年〜)
には幕府の財政力を充実させ
るために幕府領となり、その
後200年続き、後期の天保
11年(1840年)には、幕
領のまま、長州、尊攘派対策
で譜代の高槻藩永井家の預所
(あずかりどころ)とされ、
幕府はその軍事力に期待しま
した。なお枚方37カ村には幕
府のほか、大名、旗本、公家
などの多くの領主がいました。
幕末、文久2年(1862年)

には京都守護職会津容保の役知として、村野、宇山、中宮、養父と招提の一部、約3千石が当てられました。京都で勇名を馳せた新選組隊士の手当の一部が枚方の年貢から充てられていたかもわかりません。

(参考)「枚方市史第3巻」枚方市機関紙「宿場町枚方」宿場町枚方を考える会(以下、機関紙)第85号「大名や旗本陣屋跡を探る」堀家啓昌著

幕府官僚のマニユアルである「道中方覚書」には「東海道は江戸より大坂迄馬継五十六ヶ宿外人足役壹宿」の五十七宿と「東海道は江戸より京都迄馬継五十三ヶ宿」の五十三宿を併記しています。東海道五十七次は公式のものでした。枚方市史第3巻も五十七宿と記載しています。

(参考)「近世交通史資料集巻10」吉川弘文館 「市史第3巻」

宿内の道は、遠見遮断、枡形、

蛇行などの典型的な宿場町の備えで、淨念寺の前の枡形はその典型です。枚方宿は東海道各宿と同じ馬継の御用を務め、百人(人足)百疋(馬)を用意、問屋場で差配し、本陣は三矢村にありました。鍵屋のある通りの川側は三矢村の飛び地で、道を挟んで山手側は伊加賀村でした。現在、三矢団地が伊加賀西町にある

のは飛び地の名残です。現在、大阪側の堤町にある西見附から、天野川左岸、新町の東見附まで旧宿場町の道の痕跡が色濃く残っています。

(参考)「旧枚方宿の町屋と町並」東海道枚方宿」市教育委員会「枚方宿の今昔」宿場町枚方を考える会

宿役人が受発する公用文では「牧方宿」や「東海道牧方宿」と書かれることが多く、「牧」と書きながら「ひら」と読み、当時の旅行案内でも

「牧方」とされ、明治初めまで使われました。明治9年(1877年)の枚方小学校の前身の卒業証書でも「牧方小学」となっており、明治半ばまで慣用されていました。

18世紀末、寛政の頃と推定される淀川沿岸の風景を描いた「よと川の図」という絵が、大阪市立住まいのミュージア



上 枚方宿「よと川の図」 下 同「京街道を通行する大名行列」



ムで所蔵されています。折本形式で案内の貼り紙がある丁寧な絵です。淀川堤を江戸への参勤で通行する大名行列が枚方宿に向かっていますが、西見附には行列を伏して迎える本陣当主の姿や通行の大名の関札、宿入口の防壁も描かれています。宿場町の旅籠や淨念寺前の枡形の光景、伏見過書船番所の建物、本陣の建物も描かれています。瓦葺や草ぶきの建物の様子、三矢にあった本陣の建物や泥町の二つの船番所が描かれ、当時の建物の具体的な姿をとどめるのはこの図が唯一のものでしょう。周囲の村や万年寺など各寺の様子なども背景に描かれ、近世枚方の面影を偲べる新出の貴重な絵です。

18世紀末まで鍵屋浦一帯、堤町の船宿は高床でしたが、淀川流域の新田開発や山林土

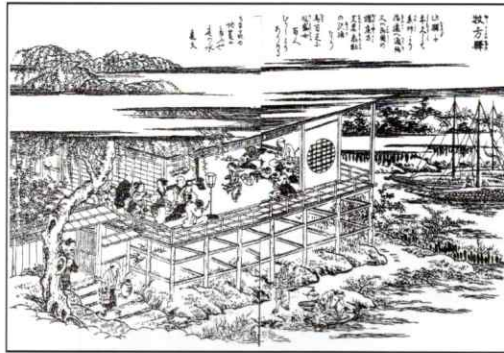
砂の流入で川底が浅くなり、氾濫、浸水予防のためか、19世紀初めから急激に船宿街の石垣化が進みました。参考図の上下を見比べてください。左図は文久元年(1861年)刊行のガイドブックで、幕末の淀川から見た鍵屋裏の光景です。建物はすべて石垣の上にあります。



「淀川兩岸一覽 上り船之部」文久元年

下図は享和元年(1801年)「河内名所図会 牧方駅」の船宿の光景ですが、建物は

高床です。60年間に景観は大きく変貌します。明治初めの淀川の水深は約50センチだったそうです。



「河内名所図会 牧方駅」享和元年(1801年)

牧方宿鍵屋資料館展示図録に載っていないし、説明書きにもない異色の鍵屋の資料として、まず資料館受付前に明治34年(1901年)の「意賀美神社奉納額」があります。明治半ばの伊加賀村の光景を描き、京阪電車も未開通で

宮山(今の伊加賀北町)にあった合祀前の旧意賀美神社や鍵屋、洪水碑、淀川を行く蒸気船などが華麗に描かれ、隣村伊加賀村の光景を偲ぶ貴重なものです。



もう一つ、2階大広間の鴨居には戊辰、箱根戦争の幕臣伊庭八郎らの遊撃隊への対応で苦勞した沼津藩水野家の重臣が官軍に出した弁明の古文書(1868年)が掲示され

ています。この来歴不明の漢字ばかりの古文書、沼津の史料館からわざわざ見学に來られました。一見の価値があります。なぜか説明書きもありませんので見落としのないよう気を付けてください。なお入館料は200円です。

(参考) 地域文化誌「まんた」第88号「鍵屋に伝わる沼津藩の書状」、同第86号「明治の神社奉納額」堀家啓男著

枚方宿にまつわる京街道

楠葉台場は幕府が京都守護職会津容保の進言、勝海舟の設計により慶応元年(1865年)に京街道の楠葉村に築かれました。京街道を引き込み、京都に向かう長州藩士や尊攘派浪士らを取り締められました。新選組隊士も警備のため来ていたようです。外国艦隊から京都を防衛するためにはなかつたようです。当時の

淀川の水深は約50センチで外航の軍艦の遡行は難しかったと思われます。台場跡は史跡に指定され、土塁の一部を活用した小公園になっています。

〔参考〕 枚方市文化財調査報告書第60集「楠葉台場跡(本編)」市文化財研究調査会 市教育委員会「淀川100年史」建設省近畿地方建設局

参勤交代の紀州侯は町楠葉の京街道沿いの米谷家で小休しました。「近藤様」が利用したという記録もあるようですが、楠葉台場にきた新選組の局長であったかもわかりませんが、米谷家小休本陣の屋敷は鳥羽伏見の戦いで焼失しました。

〔参考〕「枚方市史旧版」枚方市「東海道枚方宿」市教委 機関誌第71号「紀州侯小休本陣米谷家」堀家啓男著

近世後期まで枚方宿東見附「天の川」は「徒歩(かち)

渉り」で、橋はありませんでした。後期になり淀川の川底が浅くて逆流現象が多く、参勤交代の諸侯や大坂城大番役などの通行便宜のため、その都度往還筋に臨時の仮の板橋を架けました。日頃は公儀往還筋の外側に村普請の簡易な土橋を架け村人の便宜を図っていたようです。



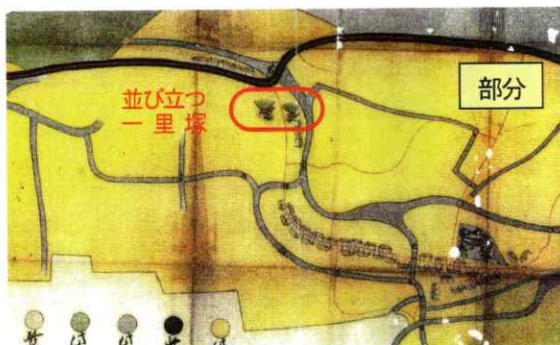
常設の「鵠(かささぎ)橋」は明治になって大阪府が架橋

しました。江戸時代、古文書に出てくる村の「天ノ川の橋」はありましたが「鵠橋」はなかったのです。

〔参考〕市史年報第10号「近世後期における淀川水系の環境変化と天の川橋」馬部隆弘著 機関誌第83号「江戸時代「鵠橋」はなかった」、まだ第85号「天の川の橋について」堀家啓男著

枚方宿西見附から出口方面への街道筋は18世紀初め、元禄時代の伊加賀村と出口村の新田開発の結果、淀川堤上につけ替えられました。享保5年(1720年)の柿木家文書の絵図の一部は、淀川と出口村集落の間に蛇行して通っていた旧来の往還筋(文禄堤跡と考えられます)が、新田に替えられた経緯を表しています。江戸時代、村人は村の利益になることなら積極的にお上に物申したようで、新田の開発のために街道の付け替

えまで要望して成し遂げたのです。このため松ヶ鼻の手前にあつた一里塚は街道が数百度東に向いたため旧のまま残され、大坂方面の左側に並んで立つ珍しい姿で描かれています。こんな一里塚は東海道で唯一ではないでしょうか。



〔参考〕馬部隆弘「享保期の新田開発と出口寺内町」市史年報第13号 機関誌第76号「淀川の「川筋

享保5年(1720年) 出口村絵図(柿木家文書)

仕置高札」、まだ第84号「枚方宿西見附からの街道ルートについて」堀家啓男著

淀川舟運

朝鮮通信使一行の豪華絢爛の御楼船、御座船は、大坂、難波橋を出たあと、枚方浜(二矢浜)現在の淀川左岸水防事務組合庁舎北付近の浜)に停泊しました。

宝暦14年(1764年)の第11回通信使来訪した時の「御馳走役(接待役)」は丹波亀山藩5万石 松平紀伊守)で、浜に通信使乗降用の木製大小二つの「波戸場」(枚方版の唐人雁木というべきものです)が設けられました。一行は波戸場に敷かれた薄縁の上を通り、本陣で休憩をとり盛大な饗応を受けました。亀山藩の武士及川廣方の残した貴重な覚書は、接待に当

たる武士の立場から見た通信使一行の様子が詳しく書かれています。その後、通信使一行は淀に向かい、江戸からの帰途も枚方浜に寄っています。枚方を含む沿岸の農民は多数船曳きや荷物運びに動員されました。

一方、枚方浜一带に繫留する100隻をこえる豪華で華麗な関係船群は見事な光景だったと思われま。異国の人々や華麗な船を見、異国の音楽を聞くこうとして近郷の村人が押し寄せたことが考えられます。

(参考)「及川家文書256、257」京都府立総合資料館 機関誌第84号「枚方浜の朝鮮通信使御馳走役と唐人波戸場」堀家啓男著

三十石船は旅客専用、長さ約17メートル、幅約2メートル半、大坂(八軒家等)と伏見を往復しました。昼夜運行

され、下り船は半日または半夜(約6時間)、上り船は1日または1晩(約12時間)かかりました。

水夫(加子 かこ)は4人、定員は28人、苦葺。上り船では船の中央にある柱に綱を結び川岸の綱引き道で引き上げました。この柱は帆を張るものではありませんでした。

天保8年(1800年)の船賃は下り84文、上りは曳き船の間隔がかかるため180文でした。枚方浜などの途中乗船は発着に手間がかかるため割高でした。なんと便所がなく、緊急の時は船頭に船を止めてもらい川島に上がって用を足しました。250年間全く改良もなかったのです。本当に辛抱強いことです。

(参考) 日野照正「近世淀川の舟運」市史研究紀要 枚方市 機関誌第64号「枚方浜の三十石船

と「くらわんか舟」についての推論」堀家啓男著 「淀川兩岸一覽 下り船之部 前嶋」

明治になると政府の方針で淀川舟運は蒸気船が主役となり、三十石船は後退していきま。大阪、伏見間を蒸気船が往復し、旅客、貨物を運びました。

枚方では枚方浜だけが停泊地となり、鍵屋も切符を販売し、乗降場所となりました。枚方の人々は徒歩で鍵屋にやってくる、蒸気船で大阪や京都に向かいました。多いときは年間3千隻前後、1日8隻の出入りがあったよう、この状況は京阪電車が明治43年(1910年)4月15日に開通するまで続きました。開業の日には沿線各地でお祝いのお祭り騒ぎでした。

(参考)「市史第四巻」枚方市「鉄路50年」京阪電車 機関誌第63号「蒸気船と京阪電車の開通」堀家啓男著

渡来人依羅氏 よさみし

伊加賀西町 河野靖忠

天皇が崩御されて皇太子が即位することを踐祚(せんそ)と言います。即位の礼として大嘗祭が行われ、55代文徳天皇(嘉祥3年/850年)の場合、難波津で「八十嶋祭(やししままつり)」が行われ、これが資料の初見だそうです。

八十嶋祭の儀式は、必ず新天皇の乳母である内侍司典侍(ないしのつかさてんじ)が祭使に任命され、神祇官・御坐・生島坐、それに「延喜式」では、住吉神四座・大依羅四

座・海神二座・垂水神二座・并史一人・琴弾一人・神部二人・内侍一人・内蔵属一人・舎人二人が内侍司典侍に従い難波津に赴きます。乳母であつた祭使は、設けられた祭壇で、天皇がかつて着た衣の入つた箱を開けて、衣を取り出し、琴の音に合わせ、衣を振り回し、海に投入するとあります。

78代二条天皇の父は後白河天皇。生まれた直後、母が亡くなり、祖父である鳥羽法

皇に引き取られ、後の美福門院の養子として育てられました。9歳の時、僧侶になる修行のため仁和寺に入ります。その後、還俗して「守仁親王」となり、立太子して即位、美福門院の娘を娶り二条天皇となります。二条天皇の八十嶋祭の行列は、平清盛の娘が祭使となり、豪華な行列であつたと言います。

八十嶋祭の目的について、ネットのフリー百科では「生島坐が参加することから、生



大依羅神社 (大阪市住吉区庭井)

建豊波豆羅別命は、開化天皇と葛城垂見宿禰の娘タカヒメとの間に生まれ、道守臣・忍

島神・足嶋神の二神を祀ることにより、国土の神霊を天皇の衣に付着させて天皇の体に取り入れ、天皇の国土支配権の裏付けを企画する祭祀である」と説明しています。
大依羅神社(大阪市住吉区庭井)の由緒の中に、「祭神の

海部造・御名部造・稻羽忍海部・丹波之竹野別・依羅阿毘古等の祖であるという。依羅安孫氏は住吉三神の祭の神主とされている。又、依羅連は日下部宿禰と同祖、彦坐王の後、百濟人素禰志夜麻美乃君より出る。又、饒速日命十二世の孫懐大連の後とあり、様々な系統があつたようである」と結んでいます。つまり祖先のことは分からないという事です。

「日本書紀」の仁徳43年9月条、依網屯倉（よさみみあけ）の阿弭古が異（あや）しき鳥を捕り、天皇に献上します。阿弭古は「私は毎に網を張り、鳥を捕っているが未だかつてこのような鳥を見たことがない。故に献上します」。そこで天皇は酒君を召して「是、何鳥ぞ」と聞く。酒君は「この鳥は百済に多くいる。飼ひ馴らせば飼ひ主に従

い、飛んで色々の鳥を捕るといので飼ひ馴らすようにと酒君に授けるとあり：。（中略）始めて鷹甘部（たかかいべ／現在の東住吉区鷹倉）を定。故に其処を名付けて鷹甘邑という」。

このようにあつて地名の由来を説明したものであるうと思われます。そして酒君は百濟からの渡来人であることを示しています。

探検家であるコロンブスは、スペイン女王を説得して西回り航路でインドに向かいました。その方が近いと考えたのでしよう。到着したのがメキシコの南にあるカリブ海の島。コロンブスはインドに到着したと思ひました。そして先住民をインディアンと思ひました。本来インド人をインディアンとするのですが、コロンブスがカリブの先住民をインディアンと呼んだことから、先住民Ⅱ

インディアンとなりました。

私はハッピーエンドで終わる、俗にいう西部劇が好きでよく見ますが、必ずインディアンが登場します。アメリカインディアンは、アパッチ・コマチ・スー・シャイアン・ナヴァホなど、西部劇では常に悪者として描かれています。悪いのは有色人種である先住民であり、渡来人である白人は常に正しいというストーリーです。日本はアメリカとは時代も事情も違い、さらに複雑です。

「日本書紀」などの歴史書を記してきたのは渡来人です。日本がまだ国ではなく、単なる島だった時代、弥生時代と呼ばれています。中国や朝鮮半島から次々と渡来して来た人を「古渡の渡来人」と言ひます。

7世紀に渡来して来た人々は「今来の渡来人」と言ひ、

差別の対象となりました。差別する人も渡来人です。

神功皇后が巫女となって自分で神託を下し、新羅に出兵しました。そして新羅が降伏、百済や高句麗も倭国の支配を受けようになりました。（この時代は、馬韓・弁韓・辰韓をする説がある。後の百済・加羅諸国・新羅である）

神功皇后摂政5年（205年）、新羅から3人の使者が来ました。先に人質として来ていたミシコチの妻子が奴婢とされたので、（納得できないので）新羅に返してほしいと申し出ました。

皇后は承知し、葛城襲津彦（かつらぎそつひこ）に兵を付けて送らせました。対馬に着いた時、ミシコチ達が別の船で逃げました。騙されたことを知った襲津彦は怒り、3人の使者を殺して新羅に渡り、草羅城を攻めて降伏させ、捕

虜にして連れ帰りました。

50代桓武天皇の母は百済系渡来人（今來の渡来人）の和氏（やまとうじ）の子である高野新笠です。

「日本後記」によると、平城京から長岡、そして平安京へ遷都した桓武天皇は、やはり渡来人である坂上田村麻呂を征夷大將軍に任じました。統治する国土を広げるため、東北地方に追いやられた先住民である蝦夷をさらに北へ追い払いました。しかし、陸奥を経営するには蝦夷を参加させた方が良くと考えた田村麻呂は、蝦夷を率いて抵抗していた大將を都に連れ帰り、公卿に命乞いをしましたが、受け入れられず処刑してしまいました。そして蝦夷の人々を東北からさらに北へ追いやりました。

本文は2018年の正月に書いています。当然ながら千

数百年前の今來の漢人を差別する人はいません。



坂上田村麻呂が連れて来た蝦夷の大將である阿弓流為と副將である母禮のゆかりの地とする塚（枚方市牧野坂2丁目 目の牧野公園内）

55代文徳天皇が天皇になって、八十嶋祭が行われ、その時、住吉神四座・大依羅四座を地主神として招きました。

小林恵子（こばやしやすこ）先生の著書「古代倭王の正体」の帯に、「卑弥呼・神武・ヤマトタケル・応神・雄略・聖徳太子…、日本列島生まれは一人もいない」と、古代の中国

などの資料を綿密に検証して記されています。

難波の地主神とされた住吉神・大依羅神（おおよさみのかみ）の故郷はどこだったのでしょうか。蝦夷や縄文人の子孫などは、文字を知る機会がなかったため、勿論、製銅・製鉄など当時の先進技術などもありません。

一回り大きいという渡来人が、甲冑を身に着け、馬に乗って鉄の槍を持ち、鉄の刀を振りかざし、追っかけて来たら逃げるしかありません。

住吉神・大依羅神は、先住民を追い払うのではなく、お米の美味しさを教えて開拓に従事させ、その融和策で広大な土地（水田）を手に入れたのではないのでしょうか。

弘仁6年（815年）、嵯峨天皇の命により編纂された「新撰姓氏録」に、「摂津国・依羅宿禰・開化天皇皇子彦坐王の

後。又、左京や右京の神別に依羅連・饒速日の後」とあることから、この時には広大な土地を有していたであろうと推察されます。また依羅連の出自に百濟国人・素祢志夜麻美乃君也があります。

日本に最初に住んでいた人を縄文人というと、中学校で習いましたので知らない人はいないと思います。その後、渡来人が稲（多分水稲であろう）を持ち込んで弥生時代が始まり現在に至っています。弥生時代の始まりはBC 10世紀やBC 3世紀などの説があり、はっきりと分かっています。

稲の流入ルートは中国説や朝鮮半島説があり、多分両方でしょう。それは伝えるためではなく、渡来人が自分たちの食料にするための種として持ち込んだ物だと思われま

す。一説には渡来人は60万人ともいわれています。縄文人

30万人の倍の人数です。古文書に記載されている数でもないので仮説に過ぎませんが、まだ国がなかった時代に次々と渡来して来たことは間違いないでしょう。

中国の古い王朝、夏王朝(二里頭遺跡BC 1800~1500)が殷により滅ぼされ、その殷も周によって滅ぼされました。周に陰りが出た時、我こそはと春秋戦国時代(東周時代ともいふ)に突入します。その我こそはとは、魏・燕・楚・秦・斎・趙・韓の七雄と言います。制したのは秦(BC 221)で王朝を建てました。私は直接戦争(昭和16年大戦)を体験していませんが、その話をする人もだんだん少なくなっています。だが聞けば聞くほど悲惨です。その悲惨さは女性や子どもなど弱い者に集中します。古代中国も戦争の歴史です。戦争がなけ

ればわざわざ渡海の危険を冒して日本へ渡つて来ることはありません。新撰姓氏録を見ると、出身地は中国や百濟など様々です。依羅連の出自は、百濟国人・素祢志夜麻美乃君と言います。

昭和初期の昭和7年(1932年)愛新覺羅溥儀(あいにんかくらふぎ)を執政として満州国を設立、日本の関東軍が常駐していました。現在の北朝鮮の西、中国の吉林(チーリン)、哈爾濱(ハルピン)、牡丹江(ムータンチアン)などです。

その満州に、かつて存在した国、扶余がありました。扶余は小さな国です。常に周りから狙われ、後ろ盾に司馬炎が建てた晋(西晋265年~316年)の初代武帝に朝貢していました。鮮卑の慕容廆(ぼようかい)は、背は高く色白で容姿端麗であった

という)に襲撃され、扶余王である依慮は自殺、妻子は沃沮(よくそ)に亡命しました。後を継いだ依羅(よさみ)は晋の武帝に救援を求めました。武帝は何龕(かがん)を派遣した。そして慕容廆を追い出すことに成功しました。しかし何龕が引き上げると、何度もやって来て扶余の民を捕まえては連れ帰り、奴隷として売りさばきました。その後、扶余は太和18年(AD 494)後の靺鞨である勿吉(もちきち)に滅ぼされます。

(その後、依羅一族は南下して百濟へ逃れましたが、百濟に定着することなく、船を仕立てて倭国に来たのでしようか。その民を援助し、倭国に連れて来たのが住吉だったかも知れません)

大阪市住吉区庭井2丁目「大依羅神社」がその末裔で

しでしょうか。また「日本書紀」に依羅池は推古朝15年(607年)に造るとあります。扶余が滅んだのが(494年)ということになるのでしょうか。大依羅神社の主祭神は建豊波豆羅和氣王。底筒之男命・中筒之男命・上筒之男命の三神で、三神は住吉神です。(なお、住吉大社は神功皇后を加えて四神である)



住吉大社の国宝四殿の内の一殿

律令制に基づく旧国名

小倉東町 平良 一郎

旧国名(以下「国」という)というのは令制国のことです。律令制に基づいて設置された日本の地方行政区分です。奈良時代から明治初期まで、日本の地理的区分の基本単位でした。例えば「薩摩国」とか「加賀国」という地方名です。「さつま」と「くに」と間に「の」を入れて読みます。

現代でも「お国柄」「お国訛り」「お国自慢」などのことばが生きています。明治初めの廃藩置県の際に現在の都道府県の骨格ができましたが、多分に政治的な線引きで、不合理な区分が多くみられます。これに比べて、国は山とか川とか自然の境界を利用してゐるために、合理的にできています。

高槻市榎田地区は、本来丹波国(京都府南桑田郡榎田村)でしたが、高槻市に合併され

ました。つまり摂津国に越境編入されたこととなります。市内中心部から榎田地区へは同じ高槻市内といっても、府道6号枚方亀岡線の山道を通り15kmくらい走ることになりますが、途中で榎田温泉の少し手前の峠あたりで、国境越えを感じます。



国境を越えると何となく景色が変わります。草木の生え

方や家の建て方などが違ったり、文化も別のようなものです。それぞれのお国柄でしょう。

同じように山城国(京都府京都市左京区)から丹波国(京都府南丹市美山町)へ越境編入された佐々里地区(旧佐々里村)は、明らかに山城国の文化圏で、南丹市中心部(旧園部町)の丹波国とは雰囲気異なります。

わが枚方市内にも越境編入があります。摂津国島上郡磯島村は、淀川の流れが変わったことよって、明治7年に河内国交野郡に編入されました。

現在の磯島元町、磯島茶屋町、磯島北町、磯島南町には、他の枚方市内の町と文化的な違いはみられません。

もともと磯島村は、淀川の中洲だったところで、たえず川を渡って、河内国との接触

があつた影響なのかもしれません。



同じ県内でも、国が違つと気候や天候が違います。福井県の天気予報は、国別に異なります。おおむね越前国は嶺北地方、若狭国は嶺南地方という呼び名で区分して、越前国は北陸地方に、若狭国は近畿地方に属しています。旧山城国乙訓郡大山崎村は、

京都府乙訓郡大山崎町と大阪府三島郡島本町山崎に、東西に2分割されました。ところが島本町山崎は大阪府に属しながら、すべて京都文化なのです。郵便番号や電話番号も京都局になっています。



この地域の人びとは、「京都人のつもりどす。買物も京都へ出かけまね」といふのを聞いたことがあ

ります。

摂津国、河内国、和泉国の三国でなりたつ大阪府は日本の都道府県で最も面積が狭い方ですが、際立った地理的障害もありません。それでもそれぞれの国によって、文化の違いがあります。(注・最も面積が狭いのは香川県1877km²、一部境界未定地あり。大阪府は1905km²)

特にお国訛り(方言)に違いがあります。昔から礼儀正しいのが○○弁、乱暴なのが□□弁、下品なのが△△弁といわれています。また運転マナーが良くないといわれている◇◇ナンバーなど、こうした国による一面的で偏った決め付けなども時代とともになくなるでしょう。

越前国と若狭国とで成り立っている福井県は、二つの国で気候が違つたために、天気

予報を分離しています。若狭国(おおむね嶺南地方)は近畿、越前(嶺北地方)は北陸に区分されています。また若狭弁は近畿の方言に分類されています。

国の別称で「州」というのがあります。原則的には国名のはじめの1字に州をつけます。河内国なら河州となりま

す。しかし、美州では美作国か美濃国かわからないので、2字目を使って、作州、濃州としています。国と州では、どちらかゴロの良い方で一般化しています。

長州、信州、播州、遠州、紀州などはよく使われますが、肥州、土州、飛州、隅州はあまり聞いたことがありません。国は、歴史や民俗を学ぶうえで重要な要素ですが、それだけではありません。

現在、国がビジネスに利用

されている一例として、物流の分野があります。

国は、生産者から消費者への生産物の物流ルートを計画する際に利用されています。

全国の主要都市に配送センターを設置して、その地域内の配送を検討するときに、問題になるのが配送センター間の線引きです。

たとえば、大阪の近畿配送センター、名古屋の中部配送センター、金沢の北陸配送センターなど、各配送境界をどこに定めるのか。各配送センターからの配送エリアを実際に検討した結果、その境界は決して「都道府県境」ではなく、「国境」になります。

近畿地方なら、大阪府、京都府、滋賀県、和歌山県、奈良県、兵庫県、三重県という単純な県単位だけでは区分できません。三重県の内、伊

賀国、紀伊国は近畿配送センターから。伊勢国、志摩国は中部配送センターからという国単位の区分が必要になります。

福井県も、北陸配送センターと近畿配送センターとの配送境界を越前国と若狭国に分けたほうが合理的です。

近畿配送センターと中部配送センターとの配送境界は鈴鹿山脈、つまり国道25号線の加太（かぶと）トンネルで仕切ります。また越前国と若狭国の間には敦賀トンネルがあります。

同じく関東配送センターと中部配送センターとの境界は、静岡県の伊豆国、駿河国を関東配送センターに。遠江国を中部配送センター管轄にします。これは大井川で線引きします。このように旧国名は現代でも生きているのです。

機関紙の文責について

「宿場町ひらかた」の文章のうち、著者名のあるものは、投稿された原文をもとに編集しています。編集の都合上、若干原文と異なる部分もありますが、変更後も著者の確認を得ており、文責は寄稿者にあります。ご了承ください。

新入会員紹介

平成30年3月1日現在

安寺 勝止さん 寝屋川市

中里 範子さん 黄金野

会員を募集しています

本会は、年数回の講演会や観光バスを利用した他宿場などの日帰り見学会の実施や機関紙（本紙）を発行しています。

会費は3600円（1年度）です。入会をお待ちしています。ご希望の方は上野まで。電話（832）5722。